

差別を止める！

アンニョン TSURUHASHI안녕

#鶴橋安寧

2013年4月19日からの1週間、朝9時から夜8時までの大阪・鶴橋駅前での街宣許可が、在特会元副会長から申請された。これに対し関西のカウンター勢は、交代で鶴橋駅前を監視、ツイッターのハッシュタグ「#鶴橋安寧」で、状況を伝えあった。



李信恵 (リ・シネ) 著

『#鶴橋安寧 (つるはしアンニョン) —アンチ・ヘイト・クロニクル』

李信恵 リ・シネ

在日コリアン2.5世・女性。東大阪市在住。差別煽動街宣や排外主義デモの現場、またはネット上で「在特会」らからヘイトスピーチを浴びせられながらも、これらに対峙してきた。昨年8月には、在特会前会長・桜井誠氏らに対し損害賠償を求め、大阪地裁に提訴した。

まだまだあります。反ヘイト・スピーチ本。



野間易通 著
『「在日特権」の虚構 —ネット空間が生み出したヘイト・スピーチ』
河出書房新社 刊 (2013年11月)



神原元 著
『ヘイト・スピーチに抗する人びと』
新日本出版社 刊 (2014年12月)

カウンター

フリー編集者の野間易通さんは、東京・新大久保などでの在特会らによる差別街宣や排外主義デモに抗議する直接行動「カウンター」を呼びかけつつ、ネット上に氾濫する「在日特権」デマなど、ヘイトスピーチへの対抗活動を続けられている。

京都朝鮮学校 襲撃事件 最高裁 判決

2009年12月4日、在特会ら十数名は「朝鮮学校を日本から叩き出せ」、「朝鮮半島に帰れ」などと叫び、子ども達の学ぶ学校の前で街宣活動を行った。この事件に対し最高裁は、2014年12月9日、京都朝鮮学校に対する在特会らの行為を人種差別と認め、在特会側に約1200万円の賠償を命じる等の判決を下した。

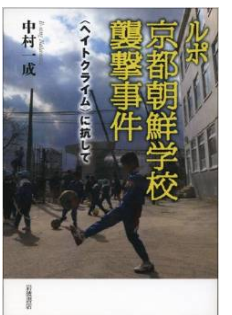
ヘイトスピーチ規制法 人種差別撤廃基本法

師岡康子弁護士、前田朗教授らが進めてきたヘイトスピーチを規制する法律等に関する研究や、国連からの勧告を踏まえ、有田芳生参議院議員が中心となり、現在、法制化の動きが進められている。



師岡康子 著
『ヘイト・スピーチとは何か』
岩波新書 (2013年12月)

中村一成 著
『ルポ 京都朝鮮学校 襲撃事件 —〈ヘイトクライム〉に抗して』
岩波書店 刊 (2014年2月)



前田朗 編
『なぜ、いまヘイト・スピーチなのか —差別、暴力、脅迫、迫害』
三一書房 刊 (2013年10月)

在特会/〈嫌韓〉本

在特会前会長・桜井誠氏は、差別煽動街宣や排外主義デモや、ネット上での「在日特権」デマ拡散などの活動を牽引し、著書もある。在特会らの活動と前後して増加したいわゆる「嫌韓本」の出版者の責任を問う声も、同業である出版関係者から上がっている。

安田浩一 著
『ネットと愛国 —在特会の「闇」を追いかけて』
講談社 刊 (2012年4月)



有田芳生 著
『ヘイトスピーチとたたかう! —日本版排外主義批判』
岩波書店 刊 (2013年9月)



ヘイトスピーチと排外主義に加担しない出版関係者の会 編著
『NOヘイト! 出版の製造者責任を考える』
ころから 発売 (2014年10月)